

特色ある学校

意気天を衝く、立佞武多(たちねぶた)の製作と運行

青森県立五所川原工業高等学校
校長 中村 昭逸

1. はじめに

本校は、昭和38年に産業界の要請と地域の方々の熱い期待を担い設立され、現在42年目である。機械科3クラス、電気科3クラスでスタートした学科は、現在、機械科、電子機械科、電気科、電子科及び情報技術科の5学科である。在籍生徒数は678名であり、卒業生は1万名の大台を超えた。卒業生は全国各地で活躍しており、それぞれの職場で重要ポストを占めるようになっている。

アテネオリンピックに出場した陸上の福士加代子さんも本校の卒業生であり、陸上競技部は毎年インターハイに出場し活躍している。インターハイ出場は陸上の他、バレーボール、ボクシング、ウエイトリフティング、少林寺拳法がある。マーチングバンドは、東北を代表して2年連続全国大会に出場している。

本校の所在する奥津軽は、市町村合併により今年の3月28日に新生「五所川原市」になる。これは、現在の五所川原市と太宰治で有名な金木町、安東水軍で知られている市浦村が合併するもので、立佞武多・太宰治・安東水軍が包含された一大観光地として着々と準備を進めている。安東水軍は村上水軍と同時期の東の巨大勢力でありロマンを感じさせる。北前船による文化も沢山残っており、ぜひ一度おいでいただきたい。

2. 五所川原「立佞武多(たちねぶた)」の歩み

- 1993.03 五所川原市在住の秋元陸奥雄宅から明治時代の台座設計図発見。
- 1996.02 高さ約20mの巨大ネブタを復活させようと、市民有志による「立佞武多復元の会」を結成。
- 1996.04 写真をもとに復元開始。
- 1996.07 岩木川河川敷にて立佞武多を運行。
- 1997.12 「立佞武多をつくる会」結成。
- 1998.07 題材「親子の旅立ち」完成。
- 1999.07 題材「鬼が来た」完成。
- 1999.11 東京ドームに出陣。445,300人の入場者。
- 2000.01 「半島地域活性化優良事例表彰」国土庁長官賞受賞
- 2000.07 題材「軍配」完成。
- 2001.07 題材「北の守護神」完成。
- 2002.07 題材「白神」完成。
- 2003.01 「立佞武多の館」着工。
- 2003.06 東京丸ビルへ「白神」出陣。
- 2003.07 題材「五穀豊穰」完成。
- 2004.04 「立佞武多の館」完成。
*館は総工費約60億円で20_㍉を超える立佞武多を常時3台展示。
- 2004.07 題材「杣(くい)」完成。
*高さ23_㍉の立佞武多「杣」は本校電子機械科卒業の齊藤忠大君製

作で初陣である。

3. 本校の立佞武多製作と運行

平成14年は本校創立40周年の年であった。この年に、記念事業の一環として、全国的に有名になりつつあった立佞武多を製作し運行することになったのが始まりである。

五所川原市の立佞武多は、高さ23^{メートル}程の巨大ネプタであり、掛け値なしで見る者を圧倒し、度肝を抜くほどである。ビルの陰から現れる様は、昔映画で見たゴジラを連想させ、心を揺さぶる。五所川原市の立佞武多が出現してからは、あの「青森ねぶた」さえ貧弱に見えてしまう。五所川原立佞武多を見た人は一様に「見応えがあるね!」と感想を述べる。

学校の立佞武多は市の半分の高さ、12^{メートル}であるが、それでも3階建て校舎の屋上を超える。立佞武多を載せる台車の安全設計が、12^{メートル}程度である。立佞武多の安全で一番気を使うのが「風」である。風を受ける面積が広く、重心が高くなっているのです、雨より怖い。



写1 五工高立佞武多 歳徳神(としとくしん)



写2 手振り鉦を上手に操る生徒

平成16年4月21日には、「立佞武多の館」がオープンし、現在3台の立佞武多が常時展示されており、入館者も大変多い。この館には立佞武多の製作場所もあり、指導もしてもらえる。

本校の立佞武多の部品は館で製作し、学校へ持ち帰り、本体に取り付けた。館で作る部品については、館から針金や紙などが無料で提供される。立佞武多製作には、大変恵まれた環境にある。部品以外のものは、学校の教室や校地内の立佞武多製作所で作っている。

運行は、囃子隊(太鼓・笛・手振り鉦)、踊り隊、引き手からなり、賑やかに行った。沿道の見物客と一緒に、盛り上がった囃子隊は一生の思い出になると思う。踊り隊は大変エネルギーを使うので、若い高校生であっても、くたくたになってしまう。しかし、沿道の観客の期待に応え、気を取り直し、精一杯踊る姿は観客の感動を呼ぶ。

4. 意気天を衝く教材としての立佞武多

【目 標】

- (1) 望ましい集団生活として立佞武多の製作と運行を位置づけ、感動や連帯感を高める。
- (2) 地域や郷土、学校に対する愛着と誇りを涵養する。

- (3) 校歌にある「意気天を衝く前進」を生徒に体験させることにより、集団や社会の一員として、よりよい生活を築こうとする自主性及び実践的態度を育てる。
- (4) 人間としての在り方、生き方についての自覚を深めるとともに、自己を生かす能力を高める。



写3 校長・踊り隊・五工高立佞武多

【内容】

- (1) 地域活性化の起爆剤として、大きな脚光を浴びるほどの夏祭りとなった立佞武多が、東京ドームや丸ビルに展示されるなど、全国的に有名になりつつある。さらに、観光施設として立佞武多を展示したり製作体験できる「立佞武多の館」がオープンし、県内外からも注目されている。これらのことをきっかけに、生徒へ立佞武多の基本的な情報を提供して、興味・関心を喚起していく。
- (2) どういう形で立佞武多に携わり、貢献できるかを生徒一人ひとりに考えさせ、自主的で積極的な活動ができる環境を与える。
- (3) 全校生徒に絵柄について募集するとともに立佞武多製作・運行の希望者を募る。
- (4) 主に放課後に活動し、人形部分の製作を行う。並行して運行の要である囃子についても練習を行う。
- (5) 8月上旬に運行し、工業高校としての技術力と生徒の活力を地域に示す。運行を通じて地域の人々との交流や文化の触れ合いの中から地域社会の一員としての自覚を促し、地域社会の形成者としての資質を養う。

【組織と役割】

〈立佞武多実行委員会〉

- ①校内組織（教職員と生徒）

② 校外組織（PTA、後援会、同窓会）

〈役割分担〉

- | | |
|----------------|--------------|
| ①総務・企画・交渉----- | 校長・教頭・イベント担当 |
| ②立佞武多製作全般----- | 特活指導部 |
| ③鉦製作・回転灯籠----- | 機械科・電子機械科 |
| ④電気配線・指導----- | 電気科 |
| ⑤太鼓台車・装飾----- | 電子科 |
| ⑥電光掲示板----- | 情報技術科 |
| ⑦踊り指導----- | 体育科 |
| ⑧囃子指導----- | 保健部 |
| ⑨生徒立佞武多運行----- | 生徒指導部・各学年 |
| ⑩製作・運行時の記録---- | 情報システム部 |
| ⑪会計----- | 事務・渉外部 |
| ⑫放送・表示・掲示----- | 図書部 |

〈地域の指導関係者〉

- | | |
|----------------|----------|
| ①立佞武多本体製作----- | PTA・本校OB |
| ②台座骨組み組立解体---- | PTA役員 |
| ③高欄組立解体----- | 本校OB |
| ④囃子隊全般指導----- | 町内会 |
| ⑤運行外----- | PTAオヤジの会 |

5. 五工高立佞武多の特徴と立佞武多製作

本校の立佞武多製作と運行の特徴はつぎの三つである。

- (1) 回転灯籠



写4 高欄の下の回転灯籠

(2) 電光掲示板

(3) 手振り鉦

回転灯籠は12面あり、十二支を配置した。この回転灯籠は電子機械科が担当し、灯籠が回転するようにした本校だけの代物である。

電光掲示板は情報技術科が担当し、種々の情報を観客に提供した。これらはいずれも工業高校らしさが前面に出ており大変評判がよく、観光客に対して大きなインパクトを与えている。

手振り鉦は、市販のものを購入すれば1組約2万円程するので機械科の手作りである。鉦の金型は旋盤で製作し、油圧ベンダーに金型を取り付け、改造した油圧プレスで生産している。

生徒は、骨組み、針金によるパーツ作り、紙貼り、色塗り等々、工業高校の機材をフル



写5 ねぶた作りの様子

に活用し、一生懸命取り組んだ。その結果、観光客の感動を呼ぶ立佞武多になり満足していた。本校の立佞武多は、五所川原市議長賞を受賞し高い評価を得た。運行に携わった生徒等も誇らしげであった。

6. 立佞武多のルーツと日本列島

本校の生徒が、立佞武多製作を機に立佞武多のルーツを調査研究した。その結果は、つぎのとおりである。参考にしていただきたい。

【結論】

財力の裏づけと祭りの囃子の理由により、「立佞武多のルーツは京都祇園祭である」と結論づけた。そして、日本列島ねぶた運行状況の調査結果として、長崎県五島列島から津軽半島にいたる、日本海側であるとの結論も得た。

【ねぶたのルーツの諸説】

(1) 坂上田村麻呂ねぶた元祖説

(2) 七夕祭説

(3) 京都祇園祭説

興味深い調査結果であるので、詳しいことはまたの機会にしたい。

7. おわりに

立佞武多の製作と運行への取り組みは、素晴らしいものがある。しかし、これを継続するには、大きな課題が横たわっている。この取り組みに要する経費は、約100万円である。

インターハイ出場の部経費等も考えると、少子化の中、学校経営全般の見直しが不可欠となる。積極的に取り組まなければならない。